

令和2年度			
講習の区分	<選択領域講習>受講者が任意に選択して受講する領域	講習時間数	6 時間
講習の名称	【選択】検定試験と英語学習の連動 ー長崎外国語大学における事例ー	講習形態	講義・実習
開設者	長崎外国語大学	定員	50 名
開設日/時間	令和2年8月20日(木) / 9:50~17:30 ※7/20変更	会場	長崎外国語大学(長崎市) 211教室
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象者	小中高教諭(外国語)
担当教員(講習代表者) / Eメールアドレス/TEL 担当教員： 富田 高嗣 (外国語学部教授) / tomita@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp / 095-840-2000			
担当教員(分担担当者等)藤内 則光(外国語学部教授)・KUMAR Krishan(外国語学部講師)			
講習のねらい/講習方法/講習到達目標 講習のねらい: 英語教育においてどのように検定試験を利用するのかについて本学での実践例を紹介し、初中等教育における外国語の授業等の補助教材作りの手掛かりを示す。紹介する事例に関しては、英語以外の外国語の検定試験の事例を紹介することで、より広範な視野のもとに学習してもらうことをも目的としている。また、本学での e-learningの活用事例を紹介することで、授業外学習のあり方検討を行う。講義の後の実習を通じて、各学校種の教員間による討論を実施し、各自の学習計画に有用なヒントを見つけてもらうことが目的である。 講習方法: 講義の後に、実習や討論時間(含質疑応答)を設け、授業内容への汎用性を検討する。 講習到達目標: 1. 英語教育における検定試験のあり方について整理を行い、その位置づけを再検討する。 2. 新しい補助教材作りのための着想を得る。			
講習内容(概要) /講習計画(時間毎の講習内容を含む) /キーワード 講習内容(概要) : 英語学習において様々な検定試験などの外部評価の利用が求められているが、そうした中初等中等教育でこれにどのように対応すべきかを考える。本講座では、長崎外国語大学での英語科目の事例を紹介することで、教材作りへの手掛りの提示を目的としている。具体的には、本学で導入しているTOEICに準拠したe-learningのシステムと授業の連動、検定対策のあり方、語学能力の到達目標の設定方法などについて紹介する。 講習計画・内容:			
	内容等	時間	担当教員
	オリエンテーション	9:50~10:00	富田・藤内・Kumar
	検定試験の位置づけについて再検討する	10:00~11:00	富田
	実践例(1)	11:10~12:10	藤内
	昼休憩	12:10~13:00	
	実践例(2)	13:00~14:00	Kumar
	e-learningの活用について	14:10~15:10	藤内・Kumar
	学習の動機づけのために: 討論と筆記試験(30分) ※休憩10分を含む	15:20~17:30	富田・藤内・Kumar
キーワード: (外国語) (検定試験) (e-learning) (学習の動機づけ)			
成績評価の方法	実習、討論および筆記試験により総合的に判断する。		
成績評価の基準	成績評価は、到達目標達成点を100点とし、総合点で60点以上を合格とします。		
履修認定の方法	成績評価の総合点で合格点に達した受講者に対して履修認定します。		
教科書・教材・参考書	適宜プリントを配布する。		
各自で準備するもの	なし。		
受講上の注意	1. 「講習の名称」が同じものは1度しか受講できません。 2. 視聴障害や聴覚障害などのため、受講に際して特別な配慮が必要な方は、受講申込前に事務局へお問合せ下さい。 3. 遅刻は原則として認めません。		